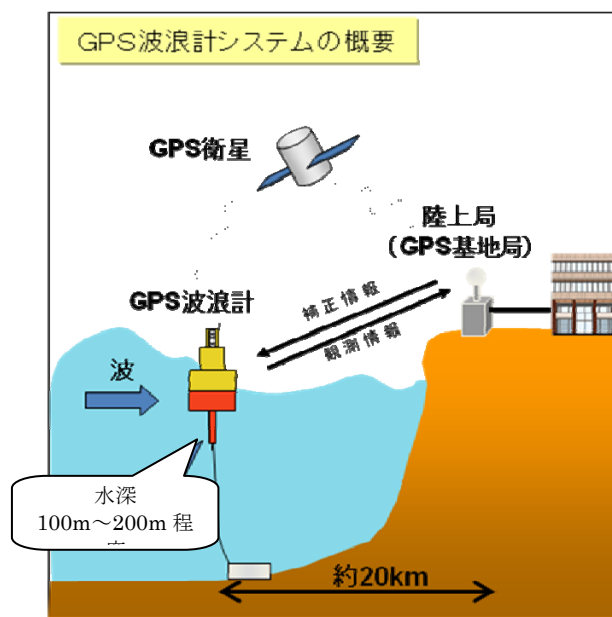


【添付資料－1】GPS波浪計による沖合波浪観測網の概要

GPS波浪計は、GPS衛星を用いて沖合に浮かべたブイの上下変動を計測し、波浪や潮位等の海面変動をリアルタイムで観測するものです。

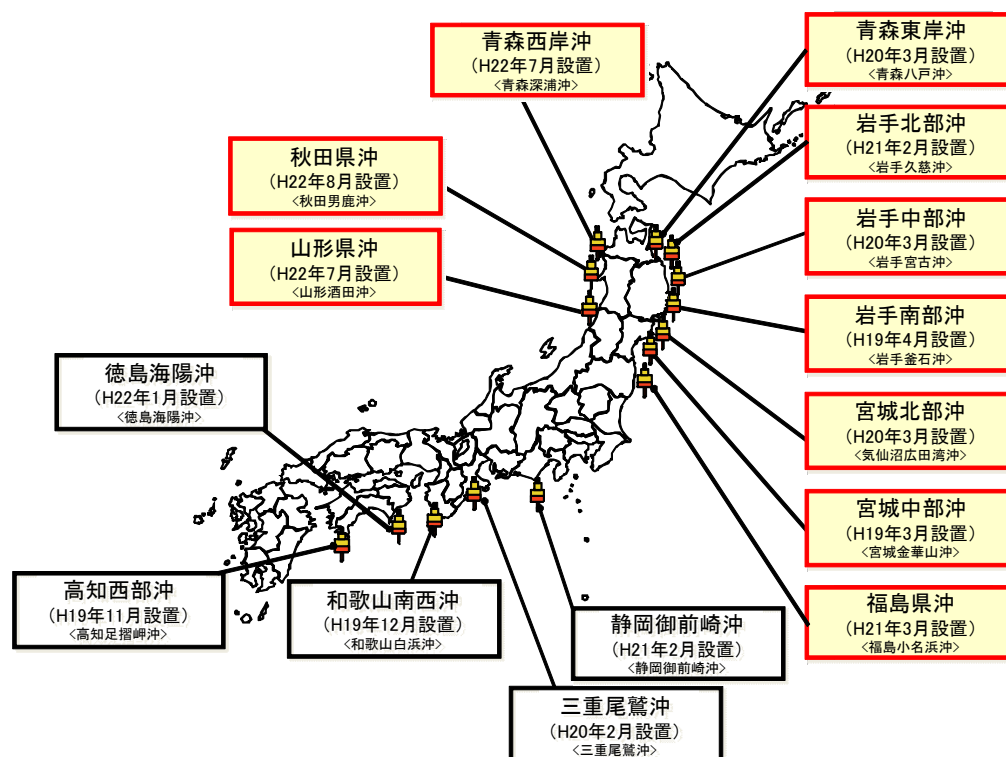
GPS波浪計での観測情報は、港湾整備に必要な波浪情報を取得するとともに、地震発生時には津波の観測も可能であり、気象庁等関係機関と連携することにより、沿岸域での迅速な津波災害対策にも活用することができます。

東日本大震災の発生直後には、東北地方太平洋岸に設置したGPS波浪計で、津波が沿岸に到達する約10分前に6mを超える潮位変動を観測しました。このデータは、気象庁においても予測津波高さの切り替えに活用されたところです。



<参考>

国土交通省港湾局では、平成18年度よりGPS波浪計による沖合波浪観測体制の整備を進めており、現在のところ15基（東北地方太平洋側に7基、日本海側に3基、静岡御前崎沖、三重尾鷲沖、和歌山南西沖、高知西部沖、徳島海陽沖に各1基）を運用しています。



※1 各地点名称はリアルタイムナウファス*での表示名

*URLは<http://www.mlit.go.jp/kowan/nowphas/>

※2 〈 〉内は気象庁発表の名称